



企業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）は重要なテーマとなっています。今回は、令和6年度「デジタルシティ松本推進企業認定制度」三つ星認定を受賞されたシナノカメラ工業株式会社様にDX推進の先にある新しいビジネスの創出をお聞きした。

1. DX推進の取り組みとして、御社の状況をお話してください。

河西社長 DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の柱として、生産管理システムの導入、業務効率化、クラウド化を進めています。初期段階ではIBM AS400を基幹システムとして導入し、業務のデジタル化をスタートさせました。勤怠管理や決済業務をクラウド化し、ペーパーレス運用を実現しています。手続きが簡素化され、業務負荷が大幅に軽減されました。

2. デジタル化の背景と具体的な成果について教えてください。

河西社長 デジタル化に取り組んだのは、業務効率化と情報共有の強化です。これまで手作業に頼っていた社用車や会議室の予約管理をシステム化し、誰でもリアルタイムに利用状況を把握できるようになりました。また、FAXを含む紙ベースの文書管理から脱却するため、2002年に富士フィルム（旧富士ゼロックス）の「DocuWorks」を導入しました。製品仕様書や会議資料、業務マニュアルなどの書類を電

子ファイルで管理、一元化するソフトウェアです。社内ネットワークで共有可能となり、セキュリティ設定も可能、直感的な感覚で操作でき、効率的に文書の管理ができています。

中村管理部長 製品改定時には最新版の製品仕様書や業務マニュアルを電子ファイル化して、関係部署と即座に共有できるようになりました。紙媒体では時間も工数もかかっていた配布作業も、今では瞬時に済むようになり、承認までのリードタイムも短縮されました。また、改定履歴がデジタル管理されるため、過去の文書との比較や確認も容易になり、業務ミスの低減に大きく貢献しています。文書の電子化は単なるペーパーレス化にとどまることなく、紙書類を管理するためのスペースが削減され文書検索の時間も短縮されました。さらに、紙文書の紛失リスクがなくなり、業務の正確性が飛躍的に向上しました。

河西社長 「desknet's」は2018年に導入し社内情報共有の要として活用しています。スケジュール管理、設備予約、ワークフロー承認が一元化され、業務の

無駄が削減されました。特にデジタル日報を活用することで、各部署の業務進捗や課題がリアルタイムで共有され、部署間の連携がスムーズになっています。また、経営会議や定例会の議事録もすべて電子化し、社内ポータル上で共有することで情報の伝達漏れや遅延がなくなりました。共有は公開範囲や権限を厳密に管理し、適切な関係者のみに配信することで、管理職の迅速な情報共有をも支えています。

3. desknet's導入による社内教育について教えてください。

河西社長 DX推進においてdesknet'sの浸透には段階的な教育と啓発活動が必要でした。従来の手作業やアナログな方法に慣れている社員も多いため、ワークフローをはじめとした新しい機能を段階的に導入し、業務と並行して理解を深める仕組みを構築することが重要でした。また、業務効率化を目指す中で、一つひとつ解決しながら教育を進め定着を図ることが求められました。最終的には社員が自然とdesknet'sを使いこなし、業務を円滑に進められるよう会社全体でサポートし、着実に浸透させることが出来ました。

4. セキュリティ対策についてお伺いします。

河西社長 セキュリティ対策としては、社内ネットワークへのアクセス制限を徹底するために、MACアドレス管理を行っています。入口と出口でのセキュリティ強化をし、不正なデータが入らないような対策をハード面とソフト面の両面で行っています。これにより、不正アクセスのリスクを最小限に抑え更に情報漏えいも防いでいます。

中村管理部長 資産管理も重視しています。Windows OSのサポート期限切れを見据えアップグレードのタイミングを図ったり、Office 365を導入してライセンス管理を一元化することでOSやアプリケーションなどの脆弱性の回避をしています。アクセス権限も部署ごと、役職ごとに細かく設定し、重要なデータに対する管理体制を強化しています。



お客様の課題やニーズに、技術力と豊富な経験で対応。

事業所名：シナノカメラ工業株式会社
所在地：長野県松本市寿北3-7-24
代表者：代表取締役社長 河西秀一
事業内容・高密度基板実装
・精密機器組立
・自社ブランド製品の企画・製造・販売

URL <https://www.sinakame.co.jp/>

自社ブランド/LiTAS(ライタス)
ECサイト <https://sinakame.stores.jp/>



DIGITALCITY
MATSUMOTO
デジタルシティ松本推進企業

デジタルシティ
松本推進認定企業



LiTAS

5. DX推進により新製品やサービスの創出に取り組んでいることがありましたら教えてください。

河西社長 デジタル化の取り組みの中で、3Dプリンターを活用した新しいビジネスの創出にも注力しています。これまでの大量生産から脱却し、少量生産やオーダーメイド製品の提供が可能になりました。例えば、顧客の要望に合わせた記念品やギフト商品の製作は、短納期・低コストで対応し、顧客満足度を高めています。また、建築模型や精密部品の試作品を製作することで、製品開発の初期段階での確認作業が効率化され、開発スピードが飛躍的に向上しました。

6. 3Dプリンター活用の成果と今後の新事業について教えてください。

河西社長 3Dプリンターを活用した新たな事業では、自社ブランドのオンライン販売に向けてECサイト( LiTAS)を立ち上げました。地方企業や小規模事業者と連携し、3Dプリンターを用いた製品提供を行うことで、新たなビジネスチャンスを創出しています。3Dプリンターで造形したケースを使って自社開発をした、雷検知器「雷報」をパイロット出荷しその後成成品に進化させました。特許も取得できたので今後、農作業・教育現場・スポーツ等の野外活動において落雷事故防止に役立てて頂ければと思います。3Dプリンター事業は、当社の成長戦略の一つです。ECサイトを強化し、個人顧客や企業向けに特化したオーダーメイド製品を提供することで、競争力を高めていきます。また、製造過程のデジタル化を進め、リードタイムの短縮やコスト削減を追求し、次世代の製造モデルとして確立していきたいと考えています。



3Dプリンター製造
「てまりランプ SUKASHI」
発光色は電球とカラー(7色変化)